

集団がん検診を受診される方へ

集団がん検診を受診されるにあたり、下記説明事項を必ずお読みください。

【胃がん】

- ☐ 胃がんは、わが国では 50 歳代以降にかかる人が多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- ☐ 検診を受けることで、がんによる死亡リスクが減少します。
- ☐ 検診は 2 年に 1 度、定期的に受けてください。ただし、胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- ☐ 検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。
- ☐ 精密検査は、胃内視鏡検査を行います。（胃 X 線検査の場合）
- ☐ 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけれない場合もあります。
- ☐ 検診は自治体と各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有されます。

【子宮頸がん（細胞診）】

- ☐ わが国では女性のがんの中でかかる人が多く、特に 30～40 歳代の女性で近年増加傾向にあるがんです。また、子宮頸がんで亡くなる方も近年増加傾向にあります。
- ☐ 検診を受けることで、がんになるリスクや死亡リスクが減少します。
（子宮頸がん検診はがんになる前の病変も見つけれられるので、今後がんになるリスクを把握できます。）
- ☐ 検診は 2 年に 1 度、定期的に受けてください。ただし、月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則などの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- ☐ 検診結果は「精密検査不要」「要精密検査」のいずれかの区分で報告されます。
- ☐ 検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。
- ☐ 精密検査はコルポスコープ下の組織診、細胞診、HPV 検査などを組み合わせて行います。
- ☐ 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけれない場合もあります。
- ☐ 検診は自治体と各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有されます。

【肺がん】

- ☐ わが国において、肺がんは死亡数が男女合わせて一番多いがんです。
- ☐ 検診を受けることで、がんによる死亡リスクが減少します。
- ☐ 検診は1年に1度、定期的に受けてください。ただし、血痰、長引く咳、胸痛、声のかれ、息切れなどの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- ☐ 検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。（喀痰細胞診で要精検となった場合は、痰の検査をもう一度受けるのではなく、必ず精密検査を受けてください。）
- ☐ 精密検査は胸部CT検査、気管支鏡検査などを行います。
- ☐ 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけれない場合もあります。
- ☐ 検診は自治体と各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有されます。
- ☐ たばこは喫煙者本人のみならず、周りの人（受動喫煙者）の肺がんリスクも高めてしまいます。禁煙によってご自身と周りの人の健康な肺を守りましょう。

【乳がん】

- ☐ 乳がんは、40～60歳代女性のがん死亡原因で最も多くなっています。
- ☐ 検診を受けることで、がんによる死亡リスクが減少します。
- ☐ 検診は2年に1度、定期的に受けてください。ただし、しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液が出る、乳頭の湿疹やただれなどの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- ☐ 検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。
- ☐ 精密検査は、マンモグラフィの追加撮影、超音波検査、細胞診などを行います。
- ☐ 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけれない場合もあります。
- ☐ 検診は自治体と各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有されます。
- ☐ 乳がんを早期に発見するためには、日頃から乳房の状態を意識する生活習慣「ブレスト・アウェアネス」が大切です。日頃の生活の中で次の4つを行いましょう。
 - ・普段から乳房をチェックして、乳房の状態を知っておく
 - ・乳房の変化に気をつける
 - ・乳房の変化に気づいたらすぐ医師に相談する
 - ・自覚症状がなくても40歳になったら2年に1回 乳がん検診を受ける

【大腸がん】

- ☐ 大腸がんは、わが国の部位別がん死亡数２位のがんであり、近年増加傾向にあります。
- ☐ 検診を受けることで、がんによる死亡リスクが減少します。
- ☐ 検診は１年に１度、定期的に受けてください。ただし、血便、腹痛、便の性状や回数に変化した、などの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- ☐ 検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。（便潜血検査の再検は不適切です。）
- ☐ 精密検査は、主として全大腸内視鏡検査（内視鏡が困難な場合などには大腸ＣＴ検査あるいはＳ状結腸内視鏡と注腸エックス線検査の併用）を行います。
- ☐ 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけられない場合もあります。
- ☐ 検診は自治体と各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有されます。